

- ★ カメムシ類による斑点米発生に注意！
- ★ 出穂期及び乳熟期（概ね出穂 15 日後）にカメムシに効果のある殺虫剤を散布しましょう！

1 病害虫発生注意報

令和7年7月9日、千葉県農林総合研究センター病害虫防除課より大型斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、イネカメムシ等）及びカスミカメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ等）の注意報が発令されました。

インターネット掲載先：<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

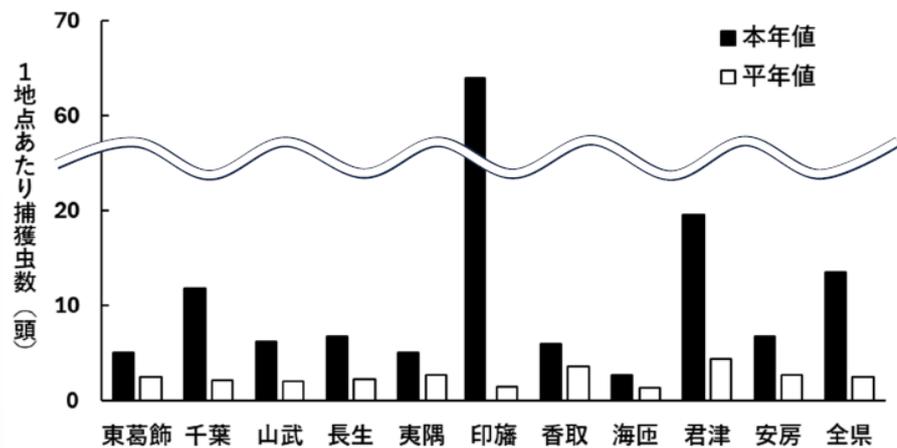
2 発生状況（すくい取り調査の結果）

6月下旬から7月上旬に行った県内 70 地点の水田周辺の雑草地すくい取り調査において、大型斑点米カメムシ類の平均捕獲虫数は 13.46 頭（1 地点あたり 20 回振りすくい取り（以下同じ）； 平成 2.49 頭）と過去 10 年と比較して最も多くなりました。地域別に見ると、全ての地域で平成より多く捕獲されました。

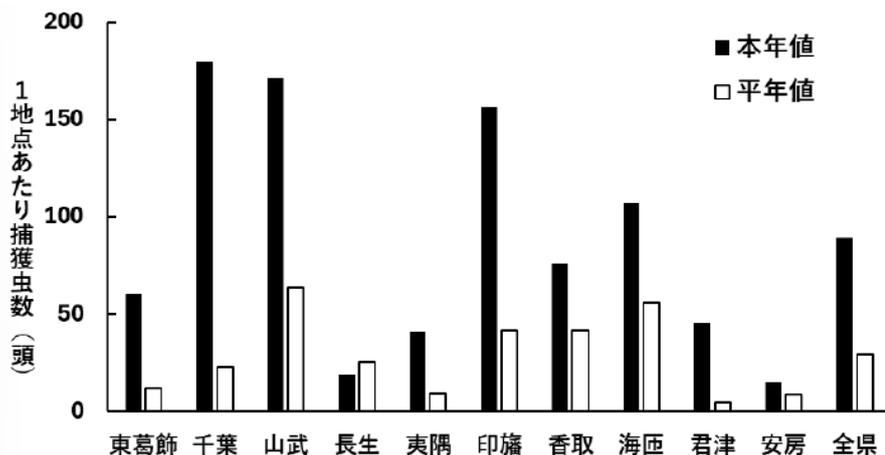
同調査において、カスミカメムシ類の平均捕獲虫数は 89.54 頭（平成 29.07 頭）と過去 10 年と比較して最も多くなりました。地域別に見ると、長生地域以外で平成より多く捕獲されました。

7月3日に発表された気象庁の1か月予報（関東甲信地方）によると、向こう1か月間の気温は高いと予報されている。このため、斑点米カメムシ類の増殖や水田侵入後の加害活動の活発化に注意してください。

大型斑点米カメムシ類



カスミカメムシ類



3 防除対策

ほ場・周辺の雑草地で斑点米カメムシ類が多発している場合は、以下の表を参考に薬剤散布を行ってください。虫体へ直接散布する粉剤・液剤及び乳剤は速効性を示します。粒剤は水稻に吸収されて効果を示すため効果が出るのに時間がかかりますが、周辺ほ場で収穫が始まっている場合等のドリフト回避に有効です。

(令和7年7月10日現在)

薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	総使用回数
スミチオン乳剤	1000倍 60～150L/10a	収穫21日前まで	2回以内
キラップフロアブル	1000～2000倍 60～200L/10a	収穫14日前まで	2回以内
キラップ粒剤	3kg/10a		
トレボン乳剤	2000倍 60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内
スタークル顆粒水溶剤	2000倍 60～150L/10a	収穫7日前まで	3回以内
アルバリン顆粒水溶剤			
スタークル液剤 10	1000倍 60～150L/10a	収穫7日前まで	3回以内

防除適期は、成虫飛来期である「穂揃期（出穂期3日後）※1」と侵入した大型の斑点米カメムシ類の成虫が産卵した卵から幼虫が孵化する「出穂期から15日後頃」です。

品種	植付時期	出穂期予測（※2）
ふさおとめ	4月20日	7月5日
ふさこがね	4月20日	7月6日
コシヒカリ	4月20日	7月14日
	5月1日	7月20日
粒すけ	4月20日	7月12日

※1 イネカメムシは出穂直後から飛来するため、イネカメムシが多い地域は出穂期が防除適期となる。

※2 出穂期は、生育ステージ予測システム（千葉県試験研究成果普及情報）を基に予測。ほ場全体の穂が4～5割程度出穂した時期を示す。

-郵便で配信している方へお願い-

通信費削減のため、「あぜみち」の配信を、郵便から、電子メール又はFAXへの切替えを進めています。変更いただける方は、下記まで御連絡ください。

連絡先 石川（いしかわ） k.ishkw75@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299（電話）